

News Release

つぎのミライは、
あなたの街から
はじまる。

NTT東日本グループ

2024年4月3日
東日本電信電話株式会社 神奈川事業部

「H!P」高校生記者が第8回横浜トリエンナーレ取材 “自分なりに感じるのが楽しみの1つ”

東日本電信電話株式会社 神奈川事業部（執行役員 神奈川事業部長：相原 朋子、以下「NTT東日本 神奈川事業部」）は、横浜トリエンナーレ組織委員会および神奈川新聞社と連携し、高校生を対象にした取材イベントを実施しました。

取材イベントに参加したのは、神奈川新聞社が発行する高校生向けフリーマガジン「H!P(エイチピー)」編集部所属する高校生記者の4名です。

高校生記者は、第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」展を鑑賞するなどして、横浜トリエンナーレの紹介や作品の解説をまとめ、「H!P」の誌面作りに協力しました。誌面には、それぞれの感想も綴られています。

今回の取材活動は、「H!P (エイチピー)」<https://www.kanaloco.jp/pr/hp_official>の4月号に掲載予定です。



【取材した高校生記者】

左から
アンダーウッド・ソフィアさん
（横浜商業高校・新3年）
阿部栞さん
（光陵高校・新3年）
江藤胡桃さん
（日々輝学園高校・新2年）
味野和愛実さん
（鎌倉女学院高校・3月卒）

1. イベントに参加した高校生記者のコメント

「横浜トリエンナーレには小さい頃に父と来たことがあるけど、私たちの身近にある素材（布や段ボールなど）で作品を創っていることに驚きを感じました。周りの友達にも、自分の想像力は無限大だと気づかせてくれる『アート』は創ることだけでなく考えることなんだと分かるって、勧めたいです。」

【アンダーウッド・ソフィアさん】

「私の中でアートは美術館でお金を出して見るもの、というイメージがあって敷居が高かったのですが、誰でも気軽にアート鑑賞できて楽しめるのはとても魅力的でした。今回の取材を通じて、現代アートの表現方法がとてもたくさんあること、作者のメッセージがわからなくても自分なりに感じることに楽しみの1つであることを知ることができて良かったです。」【阿部葉さん】

「型にはまらず、散乱しているように見えても悲惨さを伝える作品や大きな衣類やゴミの壁で自由を主張している作品もあり、現代アートは本当に自由なものと感じました。街中で気軽に鑑賞できることは、現代アートを知るキッカケとして良いので、遊園地観覧車（コスモクロック）のデジタルデザインをアート作品にしてみるなど、街中にアートが広がると面白いと思いました。」【江藤胡桃さん】

「横浜トリエンナーレの存在は知っていましたが、今回初めて会場に足を運びました。アートというとなんか難しいイメージがありましたが、私たちの普段の生活に身近なものをテーマにしている作品もあり親しみやすさを感じることができました。特に SNS を使って作った作品は、とても新鮮でした。また、こどものアート広場「はらっぱ」のように、子どもたちがアートに触れられる場が更に盛んになってほしいです。」【味野和愛実さん】

2. イベント取材模様



3. 高校生記者によるイベント取材概要

- (1) 日時：2024年3月17日（日）11時00分～16時00分
- (2) 場所：横浜トリエンナーレ会場、横浜市庁舎「わくわくアートひろば」、横浜マリニタワーなど
- (3) 取材実施者：「H!P」専属の高校生記者 4名
- (4) 取材内容：高校生目線で、同世代が関心を持ちやすい観点で取材
 - * 各会場内の展示アート作品を鑑賞
 - * ファミリー層や自身と同世代が楽しめる企画・プログラムを体験
 - * 横浜トリエンナーレ組織委員会担当者へのインタビュー など

4. 今後に向けて

NTT 東日本は、横浜市と「住みたい・住み続けたい・選ばれる都市の実現に向けたまちづくり」の推進に関する協定<*1>を締結し、その協定に資する「次世代育成」および「回遊と賑わいを創出する」取り組みとして、本取り組みだけでなく、オリジナルグッズを制作するワークショップ<*2>やチケット半券を利用した「横浜をめぐる！とくとくラリー」<*3>を運営・サポートしています。

これからも NTT 東日本グループは、課題解決・価値創造に向けた前線に立ち、これらの課題を解決するだけに とどまらず持続可能な価値を創造するソーシャルイノベーション型の取り組みをすべてのステークホルダーの方々の共感を得ながら推進していくことで、地域とともに歩むソーシャルイノベーション企業として、地域の皆様に頼りにしたいいただける会社をめざしていきます。

<*1>https://www.ntt-east.co.jp/kanagawa/information/pdf/20230922_01.pdf

<*2>https://www.ntt-east.co.jp/kanagawa/information/pdf/20240221_01.pdf

<*3> https://www.ntt-east.co.jp/kanagawa/information/pdf/20240314_01.pdf

(参考) 第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」開催概要

アーティスティック・ディレクター：リウ・ディン（劉鼎）、キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）

会期：2024年3月15日（金）～6月9日（日）

[開場時間：10:00～18:00 | 休場日：毎週木曜日（4/4、5/2、6/6を除く） | 開場日数：78日間]

会場：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、クイーンズスクエア横浜、
元町・中華街駅連絡通路

主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

公式WEBサイト：<https://www.yokohamatriennale.jp>

横浜トリエンナーレの「次世代育成」事業について－第8回展では高校生、ビギナーに注力

横浜トリエンナーレ組織委員会では、第1回展（2001年）から第7回展（2020年）までに、未来を担う世代を対象として、アーティストやアート専門家による多彩なワークショップの開催、市内の児童・生徒への鑑賞ポケットガイドの配布、学校団体の鑑賞受け入れなどを行い、異なるものの見方や解釈、多様な価値観について理解を深める機会を提供してきました。

第8回展では、特に、部活動や進学等で美術館に足を運ぶ機会が少なくなる高校生、また、美術館に来たことがない若者を対象に、アート以外の専門家の協力を得て現代アートに親しむプログラムやイベントを新たに設けました。

【本件に関する報道機関からの問い合わせ先】

● NTT 東日本 神奈川事業部 企画総務部 企画部門 広報担当

TEL : 045-226-6123 MAIL : kanagawa-kouhou-ml@east.ntt.co.jp